

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	新時代における建築外皮性能検討小委員会	主 査 名：高瀬 幸造 就任年月：2021 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (建築設備運営委員会)	委員長名：秋元 孝之 主 査 名：近本 智行
設 置 期 間	2021 年 4 月 ～ 2023 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・本小委員会では、建築外皮の性能を説明する際に、よりどころとなる知見や研究情報について環境工学の専門分野を横断して収集し、将来のあるべき建築外皮の性能評価や計画手法につなげるための調査と体系化を目的とする。</p> <p>初年度：ASHRAE や ISO などの海外規格や日本の省エネ基準における建築外皮性能に関する記述の整理を行う。また、国内外の各種規格に基づいた分析を実施し、国内外の外皮性能水準を相対化する。</p> <p>2 年度：建築主や設計者へ情報提供するための、外皮性能と仕様を整理し、具体的な検討事例とともに、シンポジウム等で公表を行う。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：高瀬幸造 (東京理科大) 幹事：中村駿介 (三菱地所設計)、館景士郎 (日建設計) 委員：山口温 (関東学院大)、高田暁 (神戸大)、望月悦子 (千葉工大)、長谷川巖 (日建設計)、佐々木邦治 (丸の内熱供給)、佐々木真人 (日本設計)、石井義章 (日本設計)、木下泰斗 (日本板硝子)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	無	
2021 年度予算	240,360 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 国内の建築外皮性能動向に関する調査を行った。</p> <p>2. 最新の建築外皮性能検討事例・実プロジェクトについて発表および意見交換を行った。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 感染症対策として全面的にオンライン会議による委員会活動とした。場所を問わずに参加可能としたことで比較的参加率は高く、ゲストにも参加いただいて活発な意見交換があったが、次年度は対面実施の委員会活動による意見交換や見学会の実施可能性を検討したい。</p> <p>2. 次年度が最終年度となるため、対外的な情報発信についても検討したい。</p>

2021 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2021 年度は初年度であったが、前身の小委員会に引き続き、多様な専門分野による委員が参加して活発な意見交換がなされた。</p> <p>特に、近年に社会全体における脱炭素社会移行への動きの中で、業務用建築物においては、省エネ基準において外皮性能の基準値を満たすことが義務化されているわけではない点について、どのような外皮性能があるべきかという点について、各委員によって様々な意見が示された。</p> <p>以下、小委員会内での議論の内容について概要を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラル社会に向けた、外皮性能のあるべき姿を検討するにあたっての論点整理 ・建築物省エネ法の改定および誘導基準において要求される外皮熱性能に関する討論 ・大手町ビルにおけるリニューアル事例紹介および意見交換 ・新宿住友ビルにおけるリニューアル事例紹介および意見交換

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。